

## 高齢社会対策の基本的在り方等に関する検討会（第4回）

2012年2月2日 横浜国立大学 関 ふ佐子

### 高齢社会対策の基本的在り方等に関する検討会報告書(素案)への意見

#### 1. 目次:タイトルとサブタイトル

##### (1) 報告書全体:サブタイトル「尊厳ある高齢社会への意識改革」

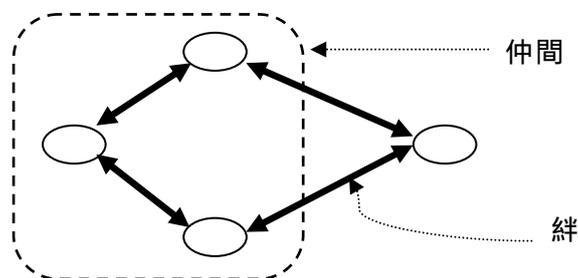
- ・ 報告書が全体的に提唱する「尊厳ある」生き方の視点と、そのためには「意識改革」を行わねばならない点を表現。

##### (2) 3(2)「世代間格差・世代内格差の存在」

- ・ 「、」よりも「・」の方が、視覚的に見出しにあうため変更。

##### (3) 3(4)「地域力・絆力の弱さと高齢者等の孤立化」

- ・ 「仲間力」も重要であるが、今回より強調すべきは「絆力」であると考え、「仲間力」を「絆力」に変更。
- ・ 「仲間」 共通した何かをもつグループ、集団
- ・ 「絆」 共感による人と人との結びつき  
例: 被災者間の助け合いは仲間による支援  
東京などに住む被災者・地と関係の少ない人が行う支援は「絆」による支援



- ・ 震災により、とりわけ気付かされた貴重な助け合いは「絆力」に基づくもの。
- ・ つながる人たちは必ずしも仲間である必要はなく、新たに注目すべきは、より緩いつながりであり、「絆力」ではないか。
- ・ これまでの地縁や血縁を避けて地域から出て行った人も行いやすい、新しい助け合いの形は、「絆」に基づく側面が強いのではないか。
- ・ 課題として指摘するとよいのも、つながる力の弱さ、「絆力」の弱さではないか。
- ・ 人によって「絆」の捉え方は異なりうるどころ、報告書では下記のように、報告書が捉える「絆」の意味を明記するとよい。
- ・ P12(4)「地域力・絆力の弱さと高齢者等の孤立化」3行目  
「さらに、今はそれらの中間の領域において、高齢者を支える力、つながる力が弱く、地縁を中心とした「地域力」や、共感による人と人との結びつきである「絆」を強める「絆力」の増幅が今後の課題であると言える。」

- ・ P13、2 段落め最後「このように、地域社会の中での人間関係を含め、地域力や絆力が弱体化し、喪失する中で、社会的孤立や孤立死の問題がでてきたといえる。」
- ・ P21、3 段落め「さらに、地域コミュニティのつながり、「絆力」の再構築に向けても重要な役割を果たす。」

#### ( 4 ) 3 ( 5 ) 「高齢者が巻き込まれる事件・認知症高齢者の増加」

- ・ 見出しは短い方がアピール力があるため、少し短くした。

#### ( 5 ) 3 ( 6 ) 「「人生 65 年時代」のままの老後の経済設計や資産形成」

- ・ 長いタイトルより不明確ではあるが、短くしてはどうか。
- ・ 「まま」は「資産形成」にもかかるため「未活用」は削除。
- ・ 「未活用」を活かしたい場合は、  
「「人生 65 年時代」のままの老後の経済設計や資産の未活用」

#### ( 6 ) 4 ( 1 ) サブタイトル「現役 65 歳は高齢者か」

- ・ 「高齢者」という言葉が 65 歳以上の者を指して使われる場合が多いなか、全ての 65 歳以上の者が支えられる人ではないという意識改革が必要であるという観点からすると、「65 歳は高齢者か」とした方が直接的な問いかけとなる。

#### ( 7 ) 4 ( 2 ) サブタイトル「支え支えられる安心社会」

- ・ 全世代が、お互いを「支え」とともに、しっかり「支えられる」ことにより、安心感が高まる社会を目指す点を表現。

#### ( 8 ) 4 ( 3 ) 「高齢者パワーへの期待」

- ・ 「活用」という言葉は、高齢者を使うというイメージにつながりやすく、前向きな表現に変えた。

#### ( 9 ) 4 ( 3 ) サブタイトル「社会を支える頼もしい現役シニア」

- ・ パワーを期待したいのは「現役」である 65 歳以上の者である。また、年長者を敬いつつ年齢を惹起させない「シニア」という言葉は、意欲と能力のある 65 歳以上の者をイメージしやすい言葉である。こうした趣旨を組み合わせ、意欲と能力のある 65 歳以上の者を「現役シニア」という言葉で表現した。

- ・ これに伴い、P18(3) の 3 段落めの文章も次のように修正してはどうか。  
「意欲と能力のある 65 歳以上の者が、現役であるシニアが、本人の希望に応じて働き続けることができる生涯現役社会を実現することは、それら現役シニアの生活基盤となる所得はもとより、…」

#### ( 1 0 ) 4 ( 4 ) サブタイトル「「絆力」を高める「互助」コミュニティ」

- ・ 上記 ( 3 ) の趣旨から、弱まった「絆力」を高める地域社会を実現させる点を盛り込んだ。

- ・ 「互助」は本報告書で、その大切さを強調する重要なキーワードであり、タイトルがサブタイトルに盛り込むべき言葉である。

#### (11) 4(5) サブタイトル「高齢者に優しい社会はみんなに優しい」

- ・ ユニバーサル・デザインの観点を表現した。

#### (12) 4(5) 「バリアフリー・ユニバーサルデザインの深化」 「犯罪・消費者トラブルからの保護と成年後見等の拡充」

- ・ 「、」よりも「・」の方が、視覚的に見出しにあうため変更。
- ・ 「及び」より見やすい「と」に変更。

#### (13) 4(6) サブタイトル 「ワーク・ライフ・バランスと次世代へ継承する資産」

- ・ 「ワーク・ライフ・バランス」というキーワードは、サブタイトルのどこかに盛り込むべきと考え明記した。

#### (14) 4(6) 「今日から始まる人生設計」

- ・ ここでの記載は、ワーク・ライフ・バランスなどを整えることによる、若・中年期からの自己啓発や健康管理などが中心となっている。そこで、その点をより分かりやすく示す表現とした。
- ・ 若・中年者に、「今日からあなたも備えないと！」というメッセージを伝えたい。

## 2. 支え支えられる高齢者

### P11 (2) 世代間格差・世代内格差の存在

- ・ 一人の人には、支えられる側面も他を支える側面もある。例えば、介護保険の要支援者が、孫の子守りをして子供世代を支えている場合もある。
- ・ このように高齢者は多様であり、支えられる側と支える側という風に、2項対立的に捉えられないよう留意すべきである。さらに、高齢者が一方的に支えられるようになるよりも、場面によって支える立場に立てる方が望ましい。
- ・ また、支えるということも、「支える立場として活躍」という風に、前向きに捉えた方がよいと思われる。

- ・ 世代間衡平を確保するために、高齢者には支える立場にたって活躍してもらいたいと記載するにあたって、その高齢者は多様な者であるという点を明記すべく、P12の(2)2段落めの文章を、事例を入れるとともに次のように変更してはどうか。  
「...社会のバランスは保てない時代になっていると言える。また、一人の人は多様な側面をもっており、例えば介護保険の要支援者として支えられる側に立つと同時に、孫の子守りをして子供世代を支える側に立つ人もいる。こうした、意欲と能力のある多様な65歳以上の者が、支えられると同時に、支える立場として活躍できるようにすることで、世代間の衡平性を確保する必要がある。」

### 3. 行政からの孤立化

- ・ 孤立化は地域からのみの話ではなく、行政からのアウトリーチが成功しておらず孤立化し、必要な行政サービスを受けられていない場合もある。そこで、次のように文章を書き加えてはどうか。
- ・ P21 の一段落め「高齢者、とりわけ一人暮らしの高齢者については、行政からのアウトリーチが成功しておらず孤立化する場合があるとともに、地域における孤立が顕著である。このことから、…」

### 4. 「おわりに」に挿入するとよい事項

- ・ 今回の報告書が「人生 90 年時代」に向けた「意識改革」を推進している点を明記。
- ・ 「尊厳のある超高齢社会の実現」を目指している点を明記。
  
- ・ 「互助」の視点、「絆」の大切さを重視する点も明記。  
震災で日本が「互助」の大切さに改めて気づけた点を謙虚に活かす姿勢を表現。
  
- ・ 意欲と能力のある 65 歳以上の者に活躍していただく環境づくりの視点と、高齢者が支えられる環境も整備された安心して生活できる社会づくりの視点の双方を明記（前者のみが強調されないよう留意する）。  
例えば 80 代の高齢者が、気持ちよくぼーっとしたり、遊べる雰囲気のある社会も重要であり、「お疲れ様」と高齢者を評価する視点も併記。
  
- ・ 高齢社会先進国として、世界に先駆けて社会を変えていく視点  
超高齢社会をポジティブに捉える視点は重要。  
ただし、日本の超高齢社会の取組みを評価するかしないかを決めるのは世界である。そこで、世界に発信していくというよりも、世界に先駆けて世界に誇れるような社会づくりを目指す姿勢を表現する。  
例えば、次のような文章の挿入も考えられる。  
「高齢社会の先駆者として注目されている日本人は、長寿社会において、支える側と支えられる側の関係も含めて、「高齢者」の捉え方について、世界に先駆けて考えていくことが重要である。」
  
- ・ リダンダンシーの視点 効率性のみを重視する社会から、無駄のようにみえることも両立できる社会、ゆとりのある社会を目指す点も記載する。  
この点、小売店と量販店の例は分かりやすく、「おわりに」に具体的な例を記載すべきでない場合、その話を p23 の 「日常生活圏の生活環境の保障」に盛り込むのも良いと思われる。